（公財）中央果実協会
No.118

南アフリカの柑橘類事情（オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘類、果汁）

米国農務省GAINレポート　2024年6月25日

これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所（南アフリカ）が作成した「柑橘類半期報告書」を訳したものであり（一部省略）、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

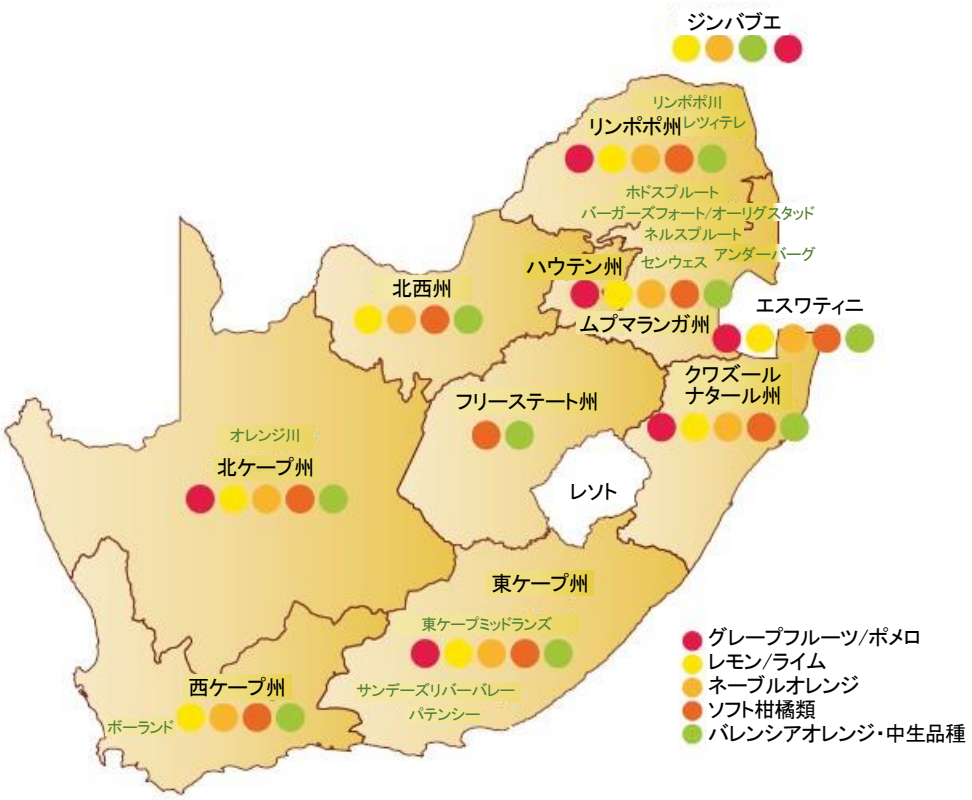
要旨

記録的なオレンジ果汁の価格により生産者が加工用の出荷を増やすため、オレンジ果汁の生産量が急増すると予想される。生産者はオレンジを、輸出市場や国内（生鮮市場）への販売から、有利な価格で加工に振り向けている。2023年春には、すべての柑橘類産地で灌漑に十分な量の雨が降った。2023/24年度には、すべての種類の柑橘類の生産が量と品質の両面で向上すると見込まれる。しかし、北部の産地では生育期に雨が少なく、果実が小玉化し、輸出規格を満たす果実の割合が減少した。2023/24年度のオレンジ、グレープフルーツ及びレモンの輸出量は、果実の小玉化と国内の加工用への転用により下方修正された。

背景

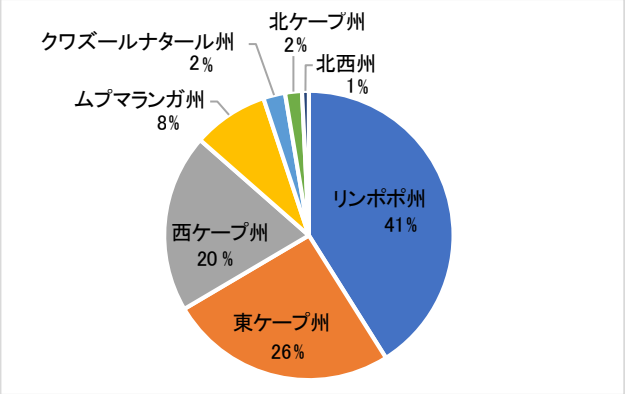
南アフリカの2022/23年度の柑橘類の総栽培面積は9万5,980ヘクタールで、2021/22年度の9万6,277ヘクタールから0.3%の微減となった。この減少は、柑橘類産業の急速な成長に続くものであり、加工と輸出の機会が制約されるため、供給過剰の懸念が高まっている。さらに、業界は、物流上の課題、投入コストの上昇、不安定な電力供給、及び特にEU市場における植物検疫要件など、いくつかの課題に直面した。南アフリカの柑橘類は、主にリンポポ州、東ケープ州、西ケープ州、ムプマランガ州で生産されている（図1）。西ケープ州と東ケープ州は相対的に冷涼な気候で、ネーブルオレンジ、レモン及びクレメンタイン、ウンシュウミカン等の皮を剥きやすいソフト柑橘類の生産に適している。ムプマランガ州、リンポポ州、クワズールナタール州は相対的に温暖な気候で、グレープフルーツやバレンシアオレンジの栽培により適している。

図1　南アフリカの柑橘類産地



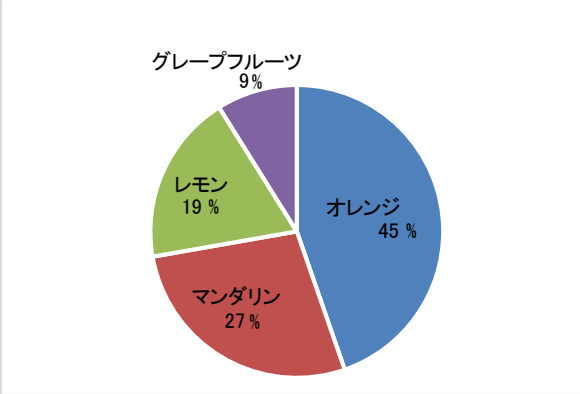
出典: 柑橘類生産者協会（CGA）

図2　柑橘類の地域別栽培面積シェア



出典：CGA

図3　柑橘類の種類別栽培面積シェア



出典：CGA

図3は、オレンジが南アフリカで生産される最大の柑橘類の種類であり、2022/23年度の柑橘類の総栽培面積の45%を占めていることを示している。一方、タンジェリン/マンダリンは、柑橘類の総生産に占める割合が、2015/16年度の約16%から2022/23年度の27%と最も大きく増加した。

南アフリカでは、少なくとも210種類の柑橘類が商業的に栽培されている。表1は、南アフリカで栽培されている最も一般的な柑橘類の品種を示している。スタールビーは最も多く栽培されているグレープフルーツの品種であるが、最近の苗木の販売額はグレープフルーツへの関心が大幅に低下していることを示している。バレンシア種はネーブル種よりも貯蔵寿命が長く、収量が多いため、生産者は、ネーブル種よりもバレンシア種を好む。ナドルコットは、南アフリカで最も人気のあるソフト柑橘類品種の1つである。

表1　柑橘類の品種

柑橘類の種類	品　　種　　名
グレープフルーツ	スタールビー、マーシュ、ジャクソン、ポメリット、ローズ、レッドハート
オレンジ	**バレンシア種/中生品種：** ミッドナイト、バレンシアレート、デルタ、ターキー、ベニー、デュロワ、グソコラ、ジャシー
	ネーブル種： カンブリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン、ウィトクラン、カラカラ、ナベリーナ、ロビン、レーンレート、オータムゴールド、ニューホール
マンダリン/タンジェリン	**ウンシュウミカン：** 三保早生、クイーン、尾張、ベラベラ、宮川早生
	クレメンタイン： ミュール、アンデス-1、オクトゥブリーナ、エスバル、マリソル
	マンダリン： ナドルコット、ナドルコットLS、タンゴ、ノヴァ、リーンリ、オッリ、ラム、モル、バレーゴールド、タンバー、シーガル
レモン/ライム	ユーレカ、リスボン、2Phシードレス、リモネイラ8A、ジェノヴァ、ユーレカシードレス、レモネリア

出典：CGA

表2　南アフリカの柑橘類の収穫期

柑橘類の種類	収穫期
マーシュグレープフルーツ	3 月～6 月
スタールビーグレープフルーツ	3 月～9 月
ネーブルオレンジ	3 月～7 月
バレンシアオレンジ	5 月～9 月
マンダリン/タンジェリン	3 月～8 月
レモン/ライム	2 月～8 月

出典：CGA

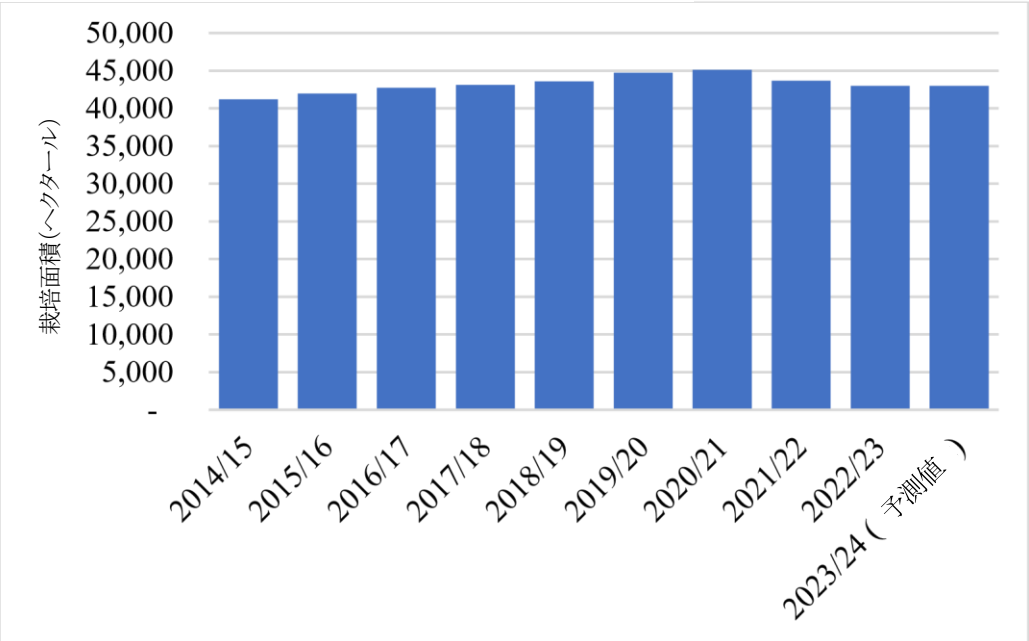
＜オレンジ（生鮮）＞

栽培面積

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のオレンジの栽培面積は4万2,990ヘクタールで概ね横ばいと予測する。生産者らは、市場の需要動向に追随するため、一部の早生ネーブルを晩生のネーブル品種に置き換えているようである。オレンジの新植は限られており、樹齢の高い果樹園を改植していると見られる。図4は、オレンジの栽培面積の推移を示しており、2020/21年度がピークとなっている。西ケープ州とリンポポ州の産地におけるソフト柑橘類への積極的な転換により、オレンジの栽培面積の増加は抑制されている。

南アフリカでは電力供給が不安定なため、生産者やバリューチェーンの他の関係者らは、中断のない灌漑と一貫したコールドチェーンへのアクセスを確保するため、代替電源への投資を続けている。さらに、生産者は気候リスクをより適切に管理し、果実の品質を向上させるために日除けネットへの投資を増やしているが、これにより面積の拡大に充てる資金がほとんど残っていない。当事務所の情報提供者らによると、生産者らは輸出市場へのアクセスに関する懸念 － 特にEUの植物検疫要件への懸念 － により、面積の拡大を制限している。非効率な港湾運営、鉄道網の不調、道路インフラの老朽化、投入コストの上昇により、オレンジ生産者の収益性が低下し、業界の継続的な投資が制限されている。2022/23年度の栽培面積は2%減の4万2,993ヘクタールとなったが、これは主にネーブル種の栽培面積の減少によるものである。

図4　南アフリカのオレンジ栽培面積の推移



出典：CGA　予測値は当事務所

リンポポ州は総栽培面積の50%を占める南アフリカの主要なオレンジ産地であり、東ケープ州（24%）と西ケープ州（15%）がそれに続く。バレンシア種はオレンジの総栽培面積の3分の2を占め、ネーブル種が残りの3分の1を占めている。植えられている主要品種はミッドナイトで総面積の26%を占め、バレンシアレート（10%）、デルタ（9%）、ベニー（7%）、ターキー（7%）の各品種が続く。南アフリカの他の栽培品種は、パーマー、カンブリア、バイアニーニャ、ワシントン等である。

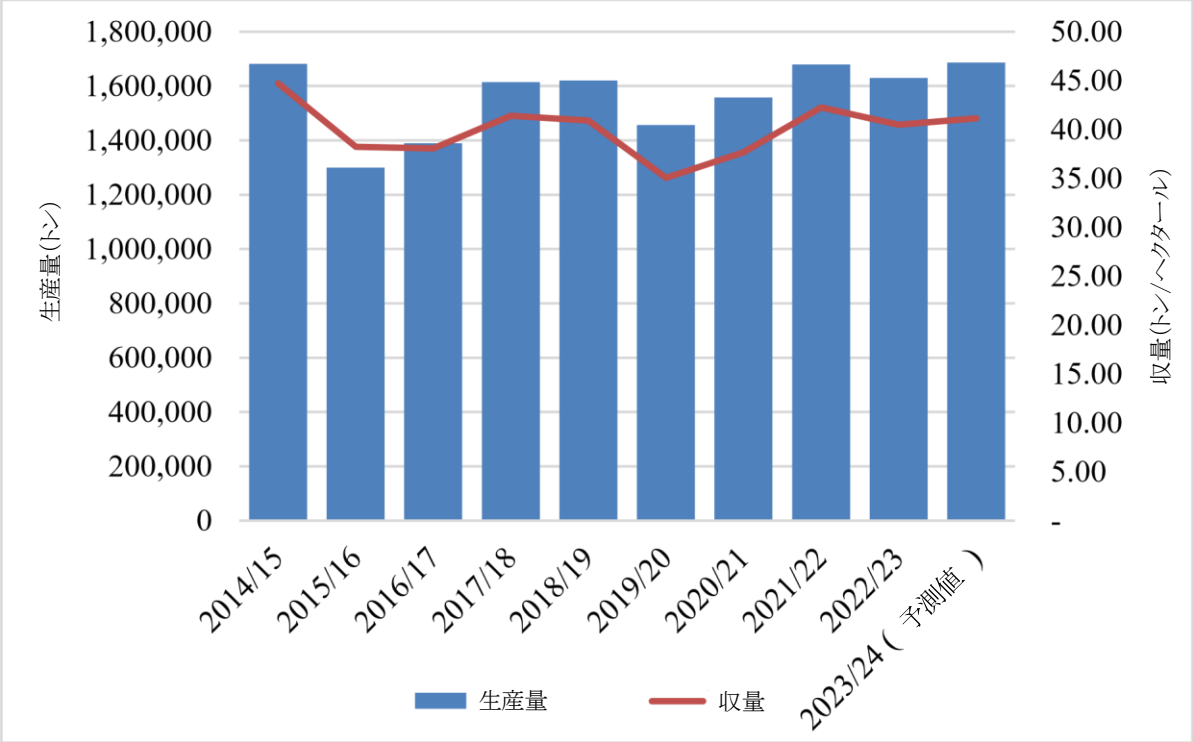
生産

2023年11月と12月に十分な雨が降り、特に北ケープ州と東ケープ州の産地で灌漑に十分な水が確保されたため、当事務所は2023/24年度のオレンジの予測生産量を169万トンに引き上げた。北部地域では、2023年12月に約10日間、非常に暑い状況が続き、生産者らは、これが果実の小玉化につながったと報告している。防護ネットへの投資拡大により、生産者らは2023/24年度産の品質と収量の全般的な向上を期待

している。したがって、当事務所は、2023/24年度のオレンジ生産量を前年比3%増と予測する。

当事務所は、2022/2023年度の生産量の推計値を据え置く。生産量は、リンポポ州、西ケープ州及び東ケープ州の産地で発生した雹を伴う嵐と大雨により、前年比3%減少した。さらに、不安定な電力供給は、生産者が必要に応じて灌漑を行う能力に影響を与えた。2021/22年度には、主要産地でシーズンを通して平均以上の降雨量に恵まれて十分な灌漑用水が確保され、収量を押し上げる生育条件が整ったことで、生産量は前年比8%増加した。図5は、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量を示している。

図5　南アフリカのオレンジ生産量の推移



出典：農業農地改革農村開発省（DALRRD）　予測値は当事務所

消費

南アフリカの生産者は輸出市場への供給を優先し、輸出基準を満たさない果実は通常、国内の生鮮消費と加工に使用される。生鮮オレンジは、南アフリカで最も広く消費される柑橘類である。しかし、米国フロリダ州のオレンジ生産量の減少と、ブラジルの干ばつによる収穫量減少への懸念により、オレンジ果汁の価格は歴史的な高値となっている。当事務所は、生鮮消費よりも相対的に収益性の高い加工用に仕向けられるオレンジが増えると予想する。さらに、消費者の嗜好はソフト柑橘類の消費にシフトしている。

当事務所への情報提供者らは、従来は地元の市場で販売されていた早生のネーブルオレンジが加工用に販売されたと報告している。そのため、当事務所は2023/24年度の国内消費量を下方修正し、前年比31%減とした。

当事務所は、国内で加工用に販売されるオレンジが増加したと見て、2022/23年度及び2021/22年度の生鮮国内消費量の推計値を下方修正した。消費量の数値には、人の食用と動物飼料の両方の生鮮出荷量が含まれている。

輸出

当事務所は、2023/24年度にはオレンジの小玉化により海外市場への出荷箱数が減少するとの予想を踏まえ、オレンジの輸出量を前年比12%減の110万トンに下方修正する。生産者は、加工用に仕向けられるオレンジの価格上昇により、搾汁用の出荷を増やしている。当事務所は、通常は輸出市場向けのクラスⅡの果実が、加工用に仕向けられると予想する。当事務所への情報提供者らによると、リンポポ州（グロブラースダ

ール）と西ケープ州の産地では、輸出市場向けの果実が強風と降雹による被害を受けた。

輸出されるオレンジは通常、ダーバン港（54%）とケープタウン港（21%）を経由して南アフリカを離れる。基幹となる機材の故障が輸出市場への果実のタイムリーな出荷を妨げており、業界関係者らは引き続き港湾のパフォーマンスに懸念を抱いている。南アフリカの業界は、輸出に対するリスクを管理するため、港湾当局との調整を続けている。

当事務所は、2022/23年度の推計輸出量を前年比5%減の120万トンに引き下げた。生産者らは、果実がカンキツ黒星病（CBS）やフォールスコドリングモス（FCM）のために検疫で止められることを懸念して、晩生のバレンシアオレンジのEUへの輸出を控えた。

南アフリカは世界100カ国以上にオレンジを輸出しているが、EUは依然として南アフリカの最大の輸出市場であり、オレンジの輸出シェアの約36%を占めている。南アフリカは柑橘類の輸出に免税アクセスを認めるEUとの自由貿易協定にもかかわらず、CBSとFCMの蔓延により、引き続き市場で植物検疫の課題に直面している。

南アフリカ政府は2024年4月24日に、CBSに関する貿易植物検疫規制について、世界貿易機関(WTO)にEUとの協議を要請した。また、南アフリカは2022年7月に、新たな規則で規定された低温処理について、EUをWTOに提訴した。EUは柑橘類の輸入において、FCMに対する防疫を確実にするために、輸入前に指定された低温処理と一定期間の予冷を行うことを義務付けている。

表3　南アフリカの生鮮オレンジ輸出

輸出先国	2021/22（トン）	2022/23（トン）	増減率	2月～4月		
				2022/23（トン）	2023/24（トン）	増減率
オランダ	264,586	280,832	6%	20	24	20%
アラブ首長国連邦	109,228	140,540	29%	198	239	21%
ロシア	85,153	96,484	13%	62	14	−77%
中国	96,892	84,345	−13%	87	0	−100%
ポルトガル	59,261	64,704	9%	0	0	−
米国	59,192	57,543	−3%	2	1	−50%
英国	73,686	54,389	−26%	95	46	−52%
香港	47,692	48,094	1%	48	335	598%
サウジアラビア	66,208	46,605	−30%	25	102	308%
カナダ	42,630	44,229	4%	46	384	735%
イタリア	34,538	38,758	12%	0	0	−
マレーシア	49,160	34,980	−29%	24	26	8%
バングラデシュ	59,977	30,682	−49%	0	0	−
インド	28,173	26,945	−4%	0	0	−
イラク	41,475	21,181	−49%	120	0	−100%
スペイン	6,630	16,720	152%	0	0	−
フランス	10,091	14,667	45%	0	20	−
シンガポール	12,894	9,691	−25%	24	129	438%
その他	*150,722*	*120,649*	*−20%*	*4,493*	*4,975*	*11%*
合　計	1,298,188	1,232,038	−5%	5,244	6,295	20%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの南アフリカ産柑橘類の輸出は、アジアや中東への輸送時間とコストを削減する画期的な出来事である。南アフリカのオレンジのかなりの量は、ダーバン港よりもマプト港にかなり近い国の北東部で生産される。昨シーズンはマプト経由で出荷されたオレンジはわずか0.6%であったが、2023/24年度にはマプト経由で輸出される割合が高くなると予想される。

南アフリカの対米輸出は、2022/23年度には生産量の減少により3%減ったものの、引き続き増加すると予想される。アフリカ成長機会法（AGOA）に基づく免税措置の恩恵を受け、米国へのオレンジの輸出量は、2021/22年度に2020/21年度の4万7,501トンから25%増加し、過去最高の5万9,192トンに達した。南アフリカは、主に米国の夏の間、ミッドナイトオレンジを輸出している。2023/24年度の南アフリカ産オレンジの米国への最初の荷は6月の第1週に到着し、10月末まで毎週の輸出が続くと予想される。

表5　南アフリカのオレンジの生産需給統計

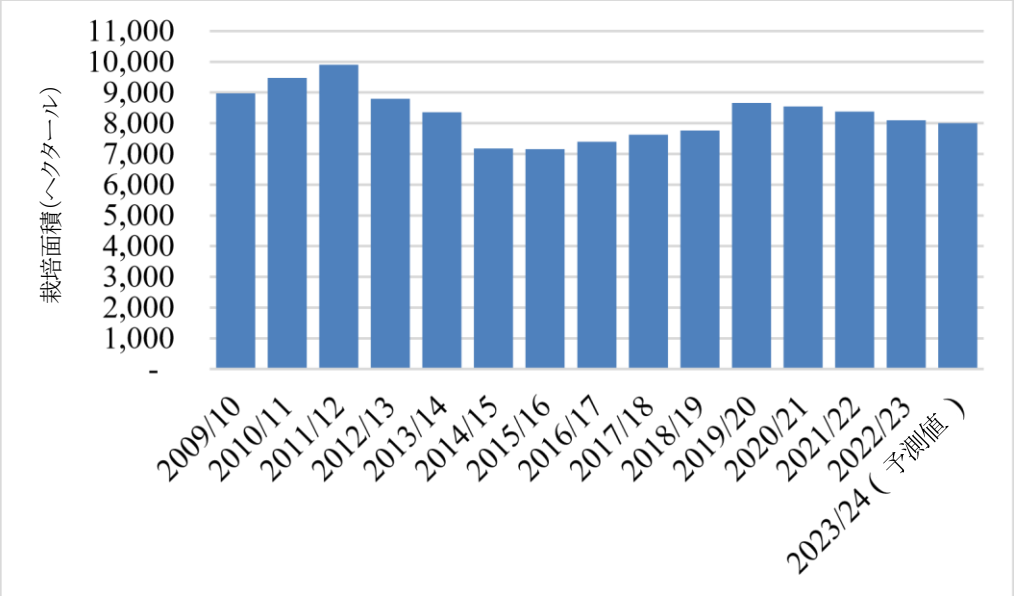
オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2021/2022 2022 年 2 月		2022/2023 2023 年 2 月		2023/2024 2024 年 2 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	43,668	43,668	43,900	42,993	43,700	42,990
収穫面積(ヘクタール)	39,738	39,738	40,250	40,250	40,000	41,000
結果樹本数(千本)	42,130	39,898	42,500	39,281	42,150	39,280
未結果樹本数(千本)	4,495	4,344	4,000	4,276	4,100	4,274
合計果樹本数(千本)	46,625	44,242	46,500	43,557	46,250	43,554
生産量(千トン)	1,609	1,680	1,630	1,630	1,620	1,687
輸入量(千トン)	5	5	3	3	3	3
総供給量(千トン)	1,614	1,685	1,633	1,633	1,623	1,690
輸出量(千トン)	1,299	1,298	1,338	1,232	1,370	1,080
生鮮国内消費量(千トン)	100	32	130	32	93	22
加工仕向量(千トン)	215	355	165	369	160	588
総仕向量(千トン)	1,614	1,685	1,633	1,633	1,623	1,690

公式データは PSD Online Advanced Query から入手できる。

＜グレープフルーツ(生鮮)＞

栽培面積

図6　南アフリカのグレープフルーツ栽培面積の推移



出典：CGA　予測値は当事務所

近年は新植が限られる一方古い果樹園が廃園されていることから、当事務所は、2023/24年度のグレープフルーツの栽培面積は減少傾向が続き、1%減の8千ヘクタールになると予測する。生産者が他の柑橘類に移行することを選択しているため、グレープフルーツの苗木の販売額は減少を続けている。南アフリカのグレープフルーツ栽培面積は、2011/12年度に約9,900ヘクタールでピークに達した。この成長は、ヨーロッパ、アジア、中東をはじめとする世界的な需要の急増によるものであった。しかし、2012/13年度以降、世界的な需要の軟化により、栽培面積は年平均2%で減少している。さらに、投入コストの上昇により、グレープフルーツ生産者の収益性が低下し、業界の投資が制限されている。

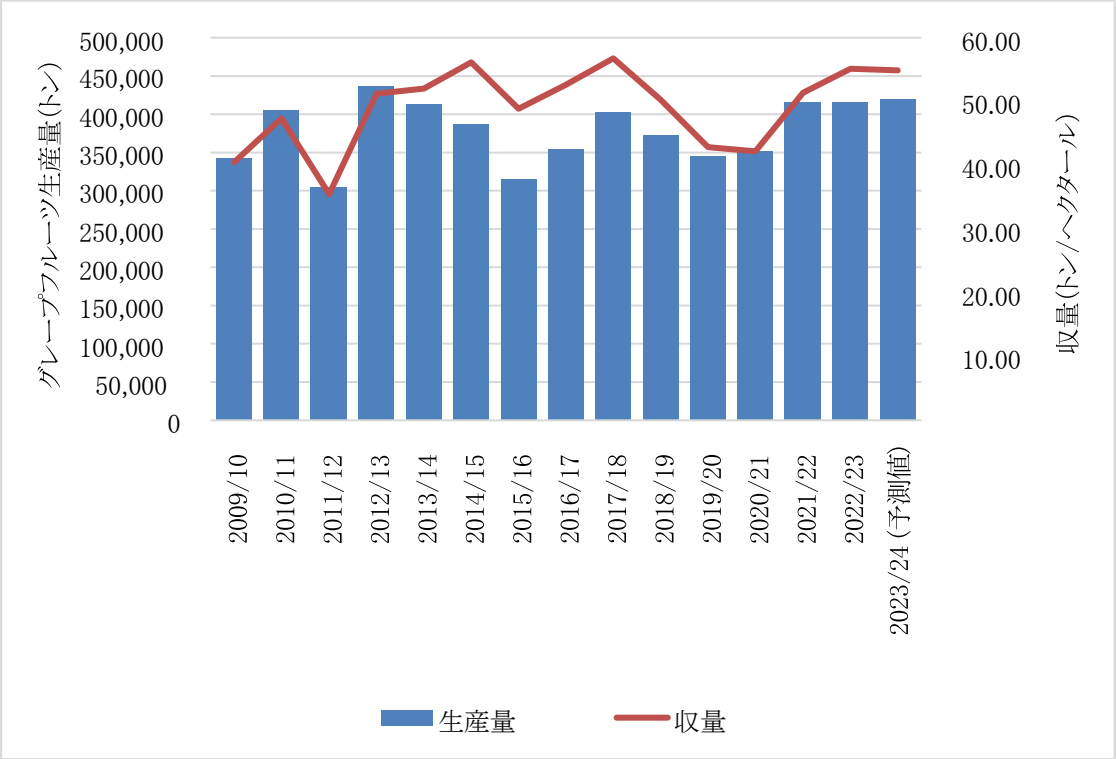
リンポポ州は南アフリカのグレープフルーツの主要産地で、総栽培面積の56%を占め、ムプマランガ州(20%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がそれに続く。スタールビーは、総栽培面積の88%を占める主な栽培品種である。南アフリカで栽培される他のグレープフルーツ品種は、マーシュ、Fe1(ジャクソン)、ポメリット、ローズ、レッドハート等である。

生産

当事務所は、2023年11月と12月に全般的に十分な降雨があり灌漑に必要な水が確保されたため、2023/24年度の予測生産量を2022/23年度比で1%の増加となる42万トンに引き上げる。しかし、当事務所への情報提供者らは、特に北部の産地で12月に10日間乾燥した時期があったため、果実の平均サイズが小さくなると予想している。

当事務所は、主要なグレープフルーツ産地での十分な降雨量に基づき、2022/23年度のグレープフルーツ生産量を41万5千トンと推定する。南アフリカの2021/22年度のグレープフルーツ生産量は前年度比で19%増加した。2021/22年度の夏の降雨シーズンは、ほとんどの産地で平年並みに始まり、シーズンを通して広範囲に雨が降り続き、十分な灌漑用水を確保して生産量の増加を支える生育条件となった。図7は、2009/10年度以降の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収量を示している。

図7　南アフリカのグレープフルーツ生産量の推移



出典：農業農地改革農村開発省(DALRRD)　予測値は当事務所

加工

国内でのグレープフルーツの加工は、輸出に代わる選択肢を提供する。2023/24年度は小玉のグレープフルーツが加工用に売却される可能性が高いと見られるため、グレープフルーツの加工仕向量を20万2千トンに上方修正する。当事務所の情報提供者らは、2022/23年度以降、加工用グレープフルーツの価格が改善したと報告している。2022/23年度には、クラスⅡ及び標準サイズに満たないグレープフルーツの輸出を控えるという業界の決定に基づき、加工用に仕向けられたグレープフルーツが前年比12%増加したと推定される。2021/22年度には輸送費(の高騰)のために輸出の収益性が損なわれ、グレープフルーツの加工仕向量が前年比203%増の17万9千トンに達した。

グレープフルーツは果汁や濃縮物に加工され、その大部分はヨーロッパに輸出される。商業的な搾汁で残ったパルプは、多くの清涼飲料水の風味付けや香料の成分として使用されるグレープフルーツオイルの重要な原料である。内果皮はペクチンとクエン酸の原料であり、どちらも食品業界で果実、ジャム、マーマレードの保存に使用される。トニックウォーターに独特の苦味を与えるナリンギンもグレープフルーツの皮から抽出される。

輸出

当事務所は、2023/24年度のグレープフルーツ輸出量を、2022/23年度の輸出量とほぼ同じ21万8千トンに下方修正した。今シーズンの果実はサイズが小さく、輸出市場向けの1箱当たりの果実の入数が多くなり、総箱数が少なくなる。生産者は大きな果実を輸出する可能性が高く、小玉やクラスⅡグレードの果実は加工用に仕向けられる。ほとんどの市場でグレープフルーツの需要が縮小していることを反映して、全体的な輸出量は伸びが鈍化しているようである。一部のグレープフルーツ産地がクラスⅡの果実の輸出用の梱包を減らし、国内の生鮮消費と加工用に回したため、2022/23年度の輸出量は前年比9%減の21万7千トンと推定される。2021/22年度のグレープフルーツの輸出量は前年比18%減少した。投入コストの高騰と輸送運賃の上昇により、一部のグレードのグレープフルーツは輸出で利益を上げることができなかった。

オランダは、2022/23年度の南アフリカ産グレープフルーツの主要市場（34%、7万2,948トン）であり、次いで中国（14%、3万1,352トン）、ロシア（10%、2万1,561トン）、日本（8%、1万7,353トン）が続いた。これら4カ国を合わせると、昨年の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の3分の2を占めた。中国は、2021/22年度の南アフリカのグレープフルーツ輸出の主要市場であり、輸出量の27%（6万3,470トン）を占めた（表6）。しかし、2022/23年度には、中国が加工用のグレープフルーツを輸入したのに対し、南アフリカの生産者はPPクラス（加工用グレード）の果実の輸出を減らして国内での加工に回したため、中国向けの輸出量は51%減少した。

総量はまだ少ないが、米国向けのグレープフルーツの輸出は過去10年間で指数関数的に増加しており、2010/11年度の275トンから2022/23年度には8,990トンに増加した。グレープフルーツの米国への輸出は、2021/22年度に輸出が全体的に減少したことを反映して30%急減したが、2022/23年度には45%増加した。北ケープ州で生産されるスタールビーグレープフルーツは、米国の夏の間、同国への輸出品として人気がある。

表6　南アフリカの生鮮グレープフルーツの輸出量

輸出先国	2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	増減率	2022/23 1月～3月 (トン)	2023/24 1月～3月 (トン)	増減率
オランダ	63,408	72,948	15%	335	688	105%
中国	63,470	31,352	-51%	296	215	-27%
ロシア	19,429	21,561	11%	95	133	40%
日本	22,866	17,353	-24%	0	0	
英国	8,978	9,342	4%	150	67	-55%
米国	6,184	8,990	45%	0	4	
イタリア	4,854	7,181	48%	0	255	
カナダ	7,168	6,889	-4%	99	79	-20%
香港	6,862	6,381	-7%	0	9	
ポルトガル	4,472	5,375	20%	0	0	
アラブ首長国連邦	3,831	5,270	38%	21	0	-100%
韓国	7,427	3,844	-48%	0	0	
台湾	2,970	2,798	-6%	0	21	
エスワティニ	3,372	2,737	-19%	23	24	4%
ギリシャ	1,439	1,539	7%	0	0	
フランス	812	1,199	48%	0	21	
ドイツ	1,744	1,127	-35%	176	41	-77%
アイルランド	656	672	2%	0	0	
その他	*7,811*	*10,010*	*28%*	*94*	*129*	*37%*
合　計	237,753	216,568	-9%	1,289	1,686	31%

出典：Trade Data Monitor LLC

表8　南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2021/2022 2022 年 1 月		2022/2023 2023 年 1 月		2023/2024 2024 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,377	8,377	8,477	8,097	8,450	8,000
収穫面積(ヘクタール)	8,100	8,100	8,307	7,530	8,350	7,650
結果樹本数(千本)	8,500	8,350	8,595	8,250	8,450	8,200
未結果樹本数(千本)	1,000	950	955	900	900	850
合計果樹本数(千本)	9,500	9,300	9,550	9,150	9,350	9,050
生産量(千トン)	416	416	420	415	400	420
輸入量(千トン)	5	5	8	8	5	5
総供給量(千トン)	421	421	428	423	405	425
輸出量(千トン)	238	238	218	217	230	218
生鮮国内消費量(千トン)	4	4	5	5	5	5
加工仕向量(千トン)	179	179	205	201	170	202
総仕向量(千トン)	421	421	428	423	405	425

公式データは PSD Online Advanced Query から入手できる。

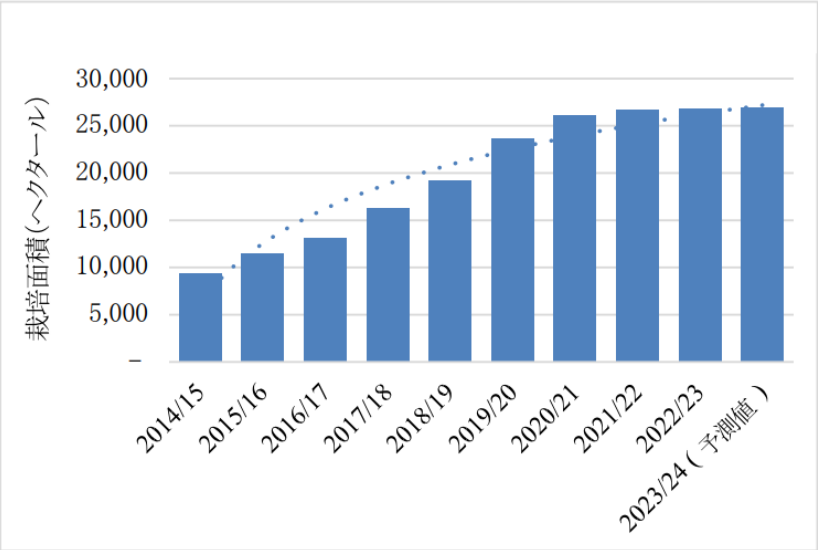
＜タンジェリン/マンダリン(生鮮)＞

栽培面積

南アフリカでは、タンジェリン/マンダリン(ソフト柑橘類)の面積拡大が鈍化している。種無しのソフト柑橘類に対する世界的な需要の高まりと、他の柑橘類と比較して比較的高い利益率に牽引された生産者の関心は、近年の大幅な新植につながり(図8)、多くの生産者は市場が飽和状態にあるのではないかと疑問に思っている。農業投入コストの上昇、インフラの非効率性、非効率な港湾運営、鉄道網の不調、道路網の悪化により、ソフト柑橘類生産者の収益性が低下し、この分野への継続的な投資が制限されている。生産者らは、病害虫をより適切に防除し、より良い水管理を可能にし、強風、降雹、日焼けなどの悪天候から果実を保護するために、防護ネットで覆われた面積を拡大している。さらに、不安定な電力供給のリスクを管理するために、代替エネルギー源への投資が行われている。

当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積を1%増の2万7千ヘクタールと予測する。このわずかな増加は、輸出市場でのソフト柑橘類の需要が相対的に高いことによるグレープフルーツ等の他の柑橘類からソフト柑橘類への移行を反映している。

図8　南アフリカのタンジェリン/マンダリンの栽培面積の推移



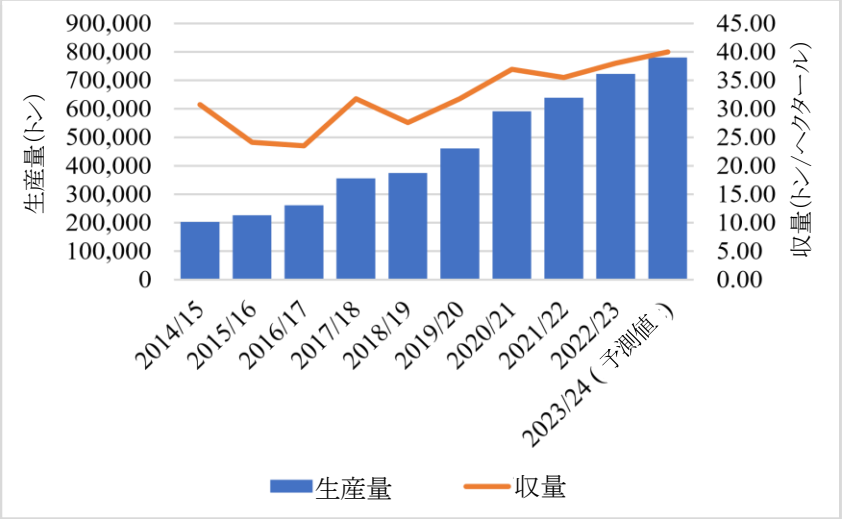
出典：CGA　予測値は当事務所

苗木の売上の低下を踏まえると、2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は、1%の微増にとどまった。西ケープ州、リンポポ州及びクワズールナタール州の産地では、わずかな面積拡大が見られた。2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は前年比2%増となった。当事務所への情報提供者らによると、2021/22年度産のタンジェリン/マンダリンのうち少量が、販売機会が限られ利用されなかったことが確認された。一部の生産物の売り先がないため、生産者はこれ以上の拡大を躊躇している。

栽培されている主な品種はナドルコットで、総面積の約18%を占めている。ナドルコットに次いで、アークシット9(16%)、タンゴ(14%)、ヌール(11%)、ノヴァ(9%)、リーンリ(7%)、オッリ(7%)が続く。西ケープ州はソフト柑橘類の最大の産地であり、南アフリカの総生産量の38%を占め、2021/22年度から1%増加した。リンポポ州(28%)と東ケープ州(24%)がそれに続く。南アフリカのソフト柑橘類栽培面積の約18%は樹齢4年以下の果樹園であり、今後数年間は市場に出回るソフト柑橘類の量が増加することになる。

生産

図9 タンジェリン/マンダリンの生産量の推移



出典: 農業農地改革農村開発省(DALRRD) 予測値は当事務所

当事務所は、若い果樹の成木化と収穫面積の拡大が見込まれることから、2023/24年度の予測生産量を前シーズン比8%増の78万トンに引き上げる。さらに、タンジェリン/マンダリンの産地では、今年度は灌漑用の十分な水があると報告されている。防雹ネットの下で栽培されるタンジェリン/マンダリンが増えており、品質と収量の両方が向上すると当事務所は予想する。

2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの予測生産量は、主要産地で灌漑に十分な水資源をもたらした降雨と、若い果樹の成木化により、13%急増して72万3千トンとなった。西ケープ州は大雨と洪水に見舞われ、クレメンタイン等の晩生柑橘類の出荷量が減少したが、洪水は作物の大部分が収穫された後に発生した。

2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は、栽培面積の拡大、好ましい気象条件及び防護ネットの使用により、前年比8%増となった(図9)。

消費

当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの国内消費量を、供給量の増加と、消費者が他の柑橘類よりも皮をむきやすく、ジューシーで甘いと考えてオレンジからタンジェリン/マンダリンに大きなシフトを図ったことに基づいて、前年比19%増の4万3千トンと予測する。2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの国内消費量は、輸出量の増加に伴い20%減の3万6千トンと推定される。2021/22年度には、南アフリカは4万5千トンのタンジェリン/マンダリンを消費し、その一部は家畜飼料にも使用された。

南アフリカの業界は、ソフト柑橘類の輸出市場を優先し、余剰の果実のみを国内市場に供給している。防護ネットの使用が増えたことで、より高品質の果実が生産され、輸出が増加し、国内の消費者への供給が減

少した。しかし、ウールワース等の一部の高級小売チェーンは、輸出グレードの柑橘類を国内の消費者に販売している。国内消費量には、人間の消費量と動物飼料の両方が含まれている。

加工

南アフリカは輸出市場への供給を優先し、輸出基準を満たさない果実は通常、加工に使用される。当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの加工仕向量を、生産量の増加により1%の微増となる7万トンと予測する。2022/23年度については、当事務所は、輸出と国内需要の増加により、タンジェリン/マンダリンの加工仕向量は9%減の6万9千トンと推定する。2021/22年度には輸送コストの高騰により輸出機会が限られたため、国内向けの供給量が増加し、加工量は前年度比で73%増加した。南アフリカのタンジェリン/マンダリンは、ほとんどが果汁と濃縮物に加工される。

輸出

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のタンジェリン/マンダリン輸出量を、生産量の増加と品質改善への投資に基づいて、8%増の67万トンと予測する。タンジェリン/マンダリンの約48%がケープタウン港から、34%がダーバン港から輸出される。港湾運営は現在、輸出市場への農産物の輸送に影響を与える運用上の制約に対する懸念が高まっており、2023/24年度の輸出にリスクをもたらしている。業界と政府の関係者は、特に5月に始まったピークシーズンの受け入れ態勢と業務効率の向上を確実にするために、港湾当局との調整を続けている。

2022/2023年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は、生産量の増加と輸送運賃の正常化を背景に、19%増加したと推定される。南アフリカは2021/22年度に、前年度比3%増の52万615トンのタンジェリン/マンダリンを輸出した(表9)。

表9 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸出量

輸出先国	2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	増減率	2022/23 2月～4月 (トン)	2023/24 2月～4月 (トン)	増減率
オランダ	102,01	134,16	32%	5,477	5,415	−1%
英国	87,821	97,448	11%	7,143	5,831	−18%
米国	53,489	49,634	−7%	67	159	137%
ロシア	51,336	51,958	1%	5,142	5,455	6%
アラブ首長国連	39,962	57,446	44%	275	726	164%
中国	23,117	30,851	33%	23	0	−100%
カナダ	22,906	29,250	28%	747	2,245	201%
バングラデシュ	21,762	22,239	2%	110	84	−24%
ポルトガル	10,853	17,269	59%	71	0	−100%
マレーシア	10,744	8,118	−24%	45	27	−40%
香港	9,475	11,438	21%	0	0	−
サウジアラビア	9,437	10,321	9%	24	71	196%
アイルランド	8,288	8,997	9%	1,010	1,275	26%
イラク	6,137	6,140	0%	0	23	−
台湾	6,020	1,681	−72%	0	0	−
インド	5,161	9,014	75%	0	0	−
セネガル	4,997	6,646	33%	0	0	−
フランス	4,461	6,055	36%	0	9	−
その他	*42,635*	*63,337*	*49%*	*754*	*1,553*	*106%*
合　計	520,615	622,002	19%	20,888	22,873	10%

出典: Trade Data Monitor LLC　　(訳注: オランダ向け輸出量の一部欠落は原文のまま)

南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場はEUと英国で、総輸出額の45%を占め、次いでアラブ首長国連邦(9%)、ロシア(8%)、米国(8%)、中国(4%)、カナダ(5%)が続いている(表9)。アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく南アフリカから米国へのソフト柑橘類の輸出は、過去6年間で指数関数的に増加し、2017/18年度の1万3,695トンから2022/23年度には4万9,634トンに増加した。2022/23年度の米国への輸出は減少したものの、「イージーピーラー(皮が剥きやすい)」品種に対する米国の消費者の嗜好の拡大に基づいて、増加傾向が続くと予想する。

表11　南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン（生鮮）	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
販売年度の始まり	2022 年 2 月		2023 年 2 月		2024 年 2 月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	26,677	26,677	26,977	26,833	27,500	27,000
収穫面積（ヘクタール）	18,000	18,000	18,500	19,000	19,000	19,500
結果樹本数（千本）	10,500	10,340	12,000	10,405	12,200	10,470
未結果樹本数（千本）	5,000	3,825	4,950	3,850	5,100	3,870
合計果樹本数（千本）	15,500	14,165	16,950	14,255	17,300	14,340
生産量（千トン）	639	639	710	723	740	780
輸入量（千トン）	3	3	3	4	3	3
総供給量（千トン）	642	642	713	727	743	783
輸出量（千トン）	521	521	600	622	630	670
生鮮国内消費量（千トン）	45	45	47	36	49	43
加工仕向量（千トン）	76	76	66	69	64	70
総仕向量（千トン）	642	642	713	727	743	783

＜オレンジ果汁＞

製造

南アフリカの生産者は、主に生鮮輸出市場向けにオレンジを生産しているが、一部の生産者、特に雹を伴う嵐による被害やその他の品質を低下させる天候の影響を受けやすい地域の生産者は、加工施設に供給するオレンジを大量に、または場合によっては専用に生産している。

2023/24年度には、オレンジ生産者が輸出品質の果実を加工用に直接納入することを検討するほどの非常に高い価格を国内の果汁業者が支払っていると報告されている。このオレンジ果汁価格の高騰は、米国フロリダ州のオレンジ生産量の減少と、ブラジルの干ばつによる収穫量の減少に対する懸念によるものである。2023/24年度のオレンジ果汁の製造量は上方修正され、59%急増の5万8,800トンと予想される。さらに、オレンジのサイズが通常より小さいと報告されており、小さいサイズのオレンジの一部は加工用に売却される可能性が高い。当事務所への情報提供者らによると、通常、国内市場で生鮮果実として販売される早生のオレンジ品種が加工用に出荷されたとのことである。一部の生産者は、海外市場と国内の果汁業者の価格差が極めて小さいため、出荷シーズンが終わってみれば収入が減少する可能性があるものの、港湾や輸送の課題に伴うリスクと不確実性を軽減することも踏まえて、計画を再考すると報告している。

2022/23年度のオレンジ果汁製造量は、加工用オレンジの出荷量の増加と生産者向けの価格の改善により、推定値を4%上方修正する。2021/22年度のオレンジ果汁製造量は、加工用オレンジの供給量の増加により48%急増した。

当事務所への情報提供者らによると、計画停電（国内では負荷軽減と呼ばれる）中に発電機を稼働させるため、燃料需要が増加して加工のコストが大幅に増加した。果汁は品質を維持するために一定の温度に保つ必要があり、加工部門にとって途切れることのない電力供給が重要である。一方、過去数年間の停電対策への投資により、国内の加工業者は、世界的な果汁価格の上昇がもたらす機会を掴むための事業拡大が可能になった模様である。

この業界では、一年中出荷できるように、前シーズンからの持ち越し在庫を保有している。南アフリカで製造されるオレンジ果汁全体の少なくとも90%は、濃縮果汁が占めている。

南アフリカでは、オレンジ果汁の業界統計はほとんど入手できない。（以下の生産需給統計表の）製造量、消費量、在庫量は、様々な情報源及び協力者からの情報、並びに生鮮オレンジの加工仕向量のデータから算出される情報に基づく当事務所の推定及び予測を表している。

輸出

当事務所は、2023/24年度のオレンジ果汁の輸出量は、製造量の回復、高い世界需要、為替レートの低迷により、14%改善すると予測する。2022/23年度のオレンジ果汁輸出量は、世界的な需要の改善と有利な価格水準により、32%増加したものと推定される。すべてのオレンジ果汁の輸出データは、以下の換算係数に基づいて、当事務所でブリックス値65相当に換算した。

HS200919のオレンジ果汁は1.02倍、HS200912のオレンジ果汁は0.18倍に換算した。HS200911のオレンジ果汁は、すでにブリックス値65に相当するため、変換していない。ブリックス値は、糖度に基づく果汁の濃度を表する。したがって、ブリックス値65は、果汁100グラム中に少なくとも65グラムのショ糖が含まれることを意味する。(訳注: このブリックス値の説明は厳密ではありません。)

南アフリカは、主にエスワティニ、ボツワナ、ナミビア、レソト、ジンバブエ等の南部アフリカ諸国にオレンジ果汁を輸出している(表15)が、ヨーロッパも南アフリカのオレンジ果汁にとって重要な市場である。南アフリカから米国へのオレンジ果汁の輸出は、2020/21年度の186トンから2021/22年度の1,871トンへと900%以上増加したが、2022/23年度には18%減少した。2023/24年度は製造量の増加により、南アフリカから米国へのオレンジ果汁の輸出も増加すると予想される。

表15 南アフリカのオレンジ果汁輸出量(HS200919、HS200911、HS200912)

輸出先国	2021/22(トン)	2022/23(トン)	変動率
オランダ	9,275	13,040	41%
ボツワナ	3,860	9,067	135%
エスワティニ	2,924	2,899	-1%
ナミビア	2,014	2,669	33%
イスラエル	1,959	1,722	-12%
米国	1,871	1,540	-18%
スペイン	928	1,523	64%
イタリア	930	1,230	32%
レソト	1,005	1,132	13%
エチオピア	803	880	10%
ジンバブエ	896	828	-8%
ザンビア	677	631	-7%
インド	577	474	-18%
ギリシャ	147	416	183%
中国	102	303	197%
モザンビーク	203	246	21%
その他	*3,004*	*2,463*	*-18%*
合　計	**31,175**	**41,063**	**32%**

出所: Trade Data Monitor

表16 南アフリカのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
販売年度の始まり	2022 年 4 月		2023 年 4 月		2024 年 4 月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向量(トン)	215,000	355,000	165,000	369,000	160,000	588,000
期首在庫(トン)	12,150	11,438	11,952	13,240	9,852	6,989
製造量(トン)	35,000	35,500	32,000	36,900	31,000	58,800
輸入量(トン)	981	981	800	1,112	800	800
総供給量(トン)	48,131	47,919	44,752	51,252	41,652	66,589
輸出量(トン)	31,179	31,179	30,000	41,063	28,000	47,000
国内消費量(トン)	5,000	3,500	4,900	3,200	4,850	3,200
期末在庫(トン)	11,952	13,240	9,852	6,989	8,802	16,389
総仕向量(トン)	48,131	47,919	44,752	51,252	41,652	66,589

公式データは PSD Online Advanced Query から入手できる。